

## 事業報告

### I. 全体概要

令和3年度の経常収益額（事業収益、受取会費、受取委託料、補助金等の合計）は83,095千円、経常費用額（事業費、管理費の合計）は83,805千円となり、当期経常増減額（経常収益額－経常費用額）は709千円の赤字となった。

このうち、種苗販売の収益となる事業収益については、公益事業関係では、かんしょ、ピーマン、台山木、デルフィニウム等の6品目が前年度実績より増収し、ランキュラス等の3品目が減収した。また、収益事業では、野菜苗及びランキュラスの球根等が減収し、全体の事業収益額は57,886千円となり、前年度実績より1,677千円の減収となった。

（当初予算比99%、前年度実績比97%）

次に、種苗生産・販売のコストとなる事業費は、賃金、燃料費、租税公課等が増額したものの、原材料費、修繕費等が減額したことにより、全体では76,405千円となり、前年度実績より2,905千円の減少となった。（当初予算比104%、前年度実績比96%）

### II. 業務別事業実績

#### 1. 管理運営に関する事業

##### 1) 総会

第59回定時総会及び臨時総会を開催し、上程した議案は全て原案どおり承認された。

#### [総会の開催]

総会	開催日	場所	議案事項
第59回定時総会	令和3年 6月23日	JAビル 503研修室	1. 令和2年度事業報告、貸借対照表等について 監査報告 2. 理事の辞任に伴う後任者の選定(案)について(別表-1) 3. 令和4年度市町村会費の見直しについて
第1回臨時総会	令和4年 3月22日	JAビル 501研修室	1. 令和4年度会費及び納入方法(案)について

##### 2) 理事会

3回の理事会を開催し、総会附議事項等について審議し、附議した議案はすべて原案どおり承認された。

#### [理事会の開催]

理事会	開催日	場所	議案事項
第1回理事会	令和3年 6月9日	JAビル 501研修室	1. 令和2年度事業報告、貸借対照表等について 監査報告 2. 理事の辞任に伴う後任者の選定(案)について 3. 第58回定時総会の開催(案)について 4. 令和4年度市町村会費の見直しについて
第2回理事会	令和3年 6月23日	JAビル 501研修室	1. 役付理事の選定(案)について(別表-2)
第3回理事会	令和4年 2月21日	JAビル 501研修室	1. 令和3年度収支予算の補正(案)について 2. 令和4年度事業計画及び収支予算(案)について 3. 令和4年度の会費及び納入方法(案)について 4. 令和4年度借入限度額(案)について 5. 令和3年度第1回臨時総会の開催(案)について

### 3) 企画運営委員会

2回の企画運営委員会を理事会に先立ち開催し、理事会附議事項及び報告事項等について協議した。

#### [運営委員会の開催]

理事会	開催日	場所	協議事項
第1回 運営委員会	令和3年 5月13日	県総合農試 大会議室	1. 令和2年度事業報告、貸借対照表等について 2. 令和4年度市町村会費の見直しについて
第2回 運営委員会	令和4年 2月16日	県総合農試 研修棟	1. 令和3年度収支予算の補正(案)について 2. 令和4年度事業計画及び収支予算(案)について 3. 令和4年度の会費及び納入方法(案)について 4. 令和4年度借入限度額(案)について

### 4) 監査

定例の棚卸監査及び帳簿監査が行われた。

監査名	開催日	備考
棚卸監査	令和4年4月1日	令和3年度期末棚卸監査
帳簿監査	令和4年4月26日	令和3年度期末帳簿監査

## 2. 種苗生産・供給事業

### 1) 園芸作物の優良種苗の生産及び安定供給

#### (1) 宮崎県が育成したオリジナル品種の種苗供給

宮崎県総合農業試験場等で育成された野菜・花きの品種等について、宮崎県から許諾を受け、種子の生産及び供給を行った。

##### ① かぼちゃ

黒皮かぼちゃの「宮崎早生1号」等の3品種について、77袋を供給し、供給金額は364千円であった。生産が減少傾向にあり、供給金額ベースで、当初計画比118%であったが、前年度実績比では84%となった。

##### ② にがうり

「宮崎つやみどり」、「佐土原3号」等の4品種について、1,109袋を供給し、供給金額は4,879千円であった。需要の減少で、供給金額ベースで、当初計画比96%、前年度実績比97%となった。

##### ③ ピーマン台木

ピーマン台木は年々需要が増加している品目で、「みやざき台木3号」、「みやざき台木5号」等の3品種について、692袋を供給し、供給金額は4,635千円であった。

需要の増加により、供給金額ベースで、当初計画比103%、前年度実績比：111%となった。

##### ④ スイートピー

「真白麻呂」、新品種の「試交23, 24号」等の8品種について、61袋を供給し、供給金額は404千円であった。需要の増加により、供給金額ベースで、当初計画比159%、前年度実績比260%となった。

⑤ デルフィニウム

白系の「ペガサス」、青系の「ブルーオリオン」等の7品種について、117袋を供給し、供給金額は1,689千円であった。需要の増加により、供給金額ベースで、当初計画比144%、前年度実績比121%となった。

(2) 栄養繁殖作物の茎頂培養苗の供給

かんしょ、いちご、らっきょう、ラナンキュラスの茎頂培養苗を生産・供給した。

① かんしょ

かんしょは基腐病の発生等の影響で、茎頂培養苗の需要が多く、「宮崎紅」、「コガネセンガン」、「べにはるか」等の9品種の挿苗及びポット苗を供給した。全体供給数は142万本（当初計画比95%、前年度実績比101%）で、供給金額は36,247千円（当初計画比、前年度実績比とも101%）であった。

次に、苗別では、挿苗は、供給数は春先の天候不順による生育遅延により供給できなかったものの、その後の供給量の回復により、当初計画には及ばなかったが、前年度実績並みの供給数となった。また、ポット苗は供給数、供給金額とも、当初計画、前年度実績より増加した。

次に、品種別では、「宮崎紅」は当初計画、前年度実績より供給数、供給金額とも減少した一方、「コガネセンガン」、「べにはるか」は供給数、供給金額とも増加した。

② いちご

「さがほのか」、「みやざきなつはるか」の苗について、10,792鉢を供給し、供給金額は3,709千円であった。需要の増加により、供給金額ベースで、当初計画比107%、前年度実績比104%となった。

③ らっきょう

「らくだ」の種球について、2,187kgを供給し、供給金額は1,323千円であった。需要の減少で、供給金額ベースで、当初計画比86%、前年度実績比107%となった。

④ ラナンキュラス

「ローズクォーツ」、「サンキュラス・ピーチ」等の12品種の培養苗及びかぎ芽苗について、2,628本を供給し、供給実績額は571千円であった。

一部の品種において、異形花等の発生が確認され、出荷を見合わせたこと等により、供給金額ベースで、当初計画比52%、前年度実績比54%となった。

(3) 優良種苗供給体制整備事業

優良種苗の安定生産技術の確立に向けた試験・実証等について、6品目で実施した。

① かんしょ苗の安定生産技術の確立

採苗量の増加に向けた苗床の栽植密度を検討し、「宮崎紅」では、密植栽培(条間10cm\*株間10cm)は慣行栽培に比較し、採苗量は多く、良質苗が得られたことから、密植栽培の有効性が確認された。

次に、省力的な採苗方法とされる一斉採苗の実用性を検討したが、採苗本数は慣行の選択採苗に比較し、70%程度で、採苗時間は60%程度となり、採苗時間を大幅に短縮できる採苗方法としての有効性が確認された。一斉採苗は、採苗本数が少なくなる欠点があることから、選択採苗の補完技術としての導入が望ましいと考えられる。

今後は、苗の調整に多くの時間を要したことから、苗の調整方法の改善等を検討していく。

② ピーマン台木の採種技術の確立

ピーマン台木の採種技術の確立として、「みやざき台木5号」等の2品種を供試し、促成栽培(9月定植)で、仕立て法の違いによる採種効率を比較・検討した。

仕立て法は、主枝4本で、側枝を全摘芯と2節摘芯として、着果率及び採種量等を検討した結果、2節摘芯が全摘芯より良好な結果を示した。

次に、省力化栽培としてのポット栽培の実用性の検討として、27cmのポット栽培、バック栽培及び慣行の土耕栽培について、採種量等を比較・検討した。

バック栽培は着果率が高く、採種量が多くなるとともに、土壌消毒、作畦等の作業時間が省力でき、省力化栽培としての有効性が確認され、実用性は高いものと思われる。

### ③ デルフィニウムの採種技術の確立

交配母本の確保対策として、交配親系統の苗を用いた挿し芽技術について検討した結果、挿し芽の大きさは3～4枚が適当と思われた。

次に、種子親系統種子の発芽率向上のための播種方法を検討した結果、床土として、固化培土を使用した場合、発芽率が向上することが確認された。

### ④ ラナンキュラスの優良種苗の安定生産技術の確立

培養苗及びかぎ芽苗の成苗率の向上を図るため、遮熱シートと細霧冷房の組み合わせによる良質苗生産の可能性を検討した結果、ハウス内の温度が慣行より低く、光量が多く、成苗率の向上が認められた。

次に、鉢上げ後の培養苗の苗傷みを回避するため、鉢上げ後に冷蔵庫で育苗した場合、成苗率の向上は見られなかったが、苗の萎えが少なく、継続検討する。

次に、かぎ芽基部に数種類の殺菌剤を塗布し、成苗率等を検討したが、薬剤の効果は判然としなかった。

### ⑤ スイートピー「紅式部」の採種技術の確立

採種率の向上を図るため、葉面散布が採種量に及ぼす効果やポット栽培での採種の可能性を検討するとともに、採種量増加による種子生産コストの低減効果を確認している。

また、採種効率を上げるため、結実量の個体間差を調査し、個体選抜の可能性を検討している。

### ⑥ ブルーフレグランスの採種技術の確立

採種技術の確立のため、育苗では、一斉発芽のための吸水前処理方法を検討した結果、30分程度の硫酸処理の発芽率が高く、作業の省力化が図られると思われた。

また、電照により開花時期を早め、高温の影響を受けない時期に結実させる管理方法については、電照により着莢が早まる傾向が見られ、さらに、採種効率の向上効果を検討している。

(4) 優良系統・品種の親株保存管理

県育成品種で、現在普及中の品種・系統及び遺伝資源としての利用の可能性のある品種・系統を将来の活用に備え、保存・管理しており、野菜2品目4品種、いも類1品目10品種、花き3品目19品種の優良親株の保存管理を行った。

[優良親株の保存管理]

作目	品目	品種	導入先	導入年	保存形態	
野菜類	いちご	とよのか	宮崎市	平成5年	フラスコ苗	
		みやざきなつはるか	県総合農試	平成25年		
		こいはるか		平成29年		
	らっきょう	らくだ	都城市	平成2年		
		らくだ		平成5年		
いも類	かんしょ	宮崎紅(A-3)	県総合農試	平成18年	フラスコ苗	
		宮崎紅(O-61)		平成24年		
		宮崎紅(T-15)		平成29年		
		ことぶき	宮崎市	平成8年		
		コガネカン	県総合農試	平成24年		
		アヤマラサキ				
		べにはるか				
		ジョイホワイト				
		ムラサキマサリ				平成25年
		コガネマサリ				平成26年
		タマアカネ				平成27年
		スズコガネ				令和3年
		AS(ヘガ親)				平成18年
		ガネット				平成18年
		ラスベリル				平成20年
ローズクオーツ	平成21年					
サンキュラス・オレンジ	平成22年					
サンキュラス・ホワイト						
花き類	デルフィニウム	AS(ヘガ親)	綾町	平成27年	鉢苗(親株)	
		ラナンキュラス		平成28年		
	ラスベリル	平成20年				
	ローズクオーツ	平成21年				
	サンキュラス・オレンジ	平成22年				
	サンキュラス・ホワイト					
	マリティーム	平成27年				
	フェラン					
	ちほの詩					
	シュノソー	平成28年				
	オレンジ・シャルトット					
	キテイラ	平成29年				
	ディーニュ					
	ポムロール					
	サンキュラス・シュガー	県総合農試				
サンキュラス・パールピンク						
スプレーカーネーション	ローロ	綾町	平成19年			
	ローロレッド	県総合農試				
	ローロピンク					

2) 野菜苗の受託育苗

ハウス施設の有効利用等を図るため、7月～10月を主体に、野菜苗（ピーマン、なす、きゅうり）の中間育苗をジェイエイ・アグリシード(株) から受託して行った。

かんしょ苗の供給開始時期を早めるため、野菜苗の育苗期間を短縮したことから、受託本数は97千本、受託金額は5,191千円で、受託金額ベースで、当初計画比74%、前年度実績比65%となった。

[野菜苗の受託数量]

品目	数量(本)
ピーマン	30,425
きゅうり	15,510
なす(佐土原なす含)	15,850
合計	61,785

(別表-1)

役員・理事の辞任に伴う後任者の選定について

1. 内容

	辞任理事		新任理事	
	氏名	勤務先役職名	氏名	勤務先役職名
理事	大久津 浩	前宮崎県農政水産部長	牛谷 良夫	宮崎県農政水産部長
理事	日高 義幸	前宮崎県総合農業試験場長	東 洋一郎	宮崎県総合農業試験場長
理事	甲斐 徹	前高千穂町農林振興課長	佐藤 峰史	高千穂町農林振興課長

任期：令和3年6月定時総会から令和4年6月定時総会まで

(別表-2)

役員・理事の選定について

1. 内容

役職	氏名	勤務先役職名
副会長理事	牛谷 良夫	宮崎県農政水産部長

任期：令和3年6月第2回理事会から令和4年6月定時総会まで